



南国市長
小笠原喜郎

皆さんよいお正月をお迎え
になったことと拝察申し上げ
ます。新しい年も旧年以上に
幸せな年となりますように祈
念いたします。

昭和もいつしか六十年をと
なえる年になりました。戦争
の終わった年を境として数え
ると、昭和二十年からおよ
ど二倍の年月を経たことにな
ります。日本の歴史の転
換期といわれるこの四十
年を振り返ってみると、
生きていくために日々
暮らしたたかかった時
代、経済成長時代、より
豊かな生活を求めてその
ことのために努力を傾注
した時代、国際環境にも恵まれて
福祉のより充実した社会を求める
時代へと、進んでまいりました。
私も、南国市民の生活も概して
平穏に、日本の国とともに順調な
経過をたどって来たように思われ
ます。

ところで、国民一人一人の暮ら
しがよくなった反面、いつの間
にか国も地方自治体も、財政の運営
に四苦八苦しなければならぬ羽
目に陥っていました。そして今、
行財政の改革が強く叫ばれており
ます。南国市も残念ながらその例
にもれませんが、行財政の改革は避
けて通ることは出来ないものであり
ます。不急事業の延伸、経費削減
のための機構の簡素化、人件費の
抑制、事務の機械化や民間委託等
が、新しく設けられた行財政事務
改善委員会の検討課題となってお
ります。幸い、南国市には他の自
治体に比して国、県、公社、公団
等の事業に恵まれ、行政の根幹と
なる諸建設事業はたゆみなく進ん
でおります。

財政の窮乏は大問題であります
が、さりとて市の行政の停滞は許
されませんので、同対策事業や
教育施設の充実、二次産業の振興
等については、今年も相応の成果
を上げていきたいと願っています。
同対策事業のうち、環境整備
のための小集落地区改良事業につ
きましては、野中地区百数十億円
の事業に対して進捗率は三十数%
で、なお多くの残事業があり、今
後一層関係者のご協力を仰がなけ
ればなりません。前浜地区は五十
%進んでおり、六十一年度中に完
了する見込みであります。

教育施設につきましては、待望
久しかった十市小学校の新しい校
舎が二月末に出来上がり、全校生
徒の移転が可能となります。増改
築中の香長中学校の校舎及び施設
は、三月末に完成します。北陵中
学校の生徒増に対する教室の増築
や、大湊小学校の騒音対策事業も
早急に取りかかります。大湊小学
校の講堂も本年中に着工する予定
であります。

二次産業の振興につきましては、
南国市にふさわしい優良企業が企
業者側の決意と県当局の協力によ
り、実現の可能性が生まれてきま
した。しばらく具体的な目標が出
来たわけです。

今年、牛の歩みのように堅実
な足取りで進みながら、のみ込ん
でいるもろもろの課題をゆつくり
こなしていきたいと考えておりま
す。どうぞよろしくご協力のほど、
お願いします。

新年



南国市議会議長
岡崎 俊一

明けましておめでとうござ
います。皆様には、おそろい
でよいお年を迎えられたこと
と存じます。

この一年が皆様にとつて、
限りなく幸の多い一年であり
ますよう心からお祈り申し上げま
す。

南国市も、市制施行以来二十六
年目の新春になりますが、人間に
たとえ、新たな希望に燃え、
たくましく躍動しようとする青年
期であります。世の中が
複雑になるにつれ、私た
ちを取り巻く環境も次第
に厳しさを増してまいり
ます。このようなときに
こそ、心を引き締め新た
な気持ちで臨まなければ
ならないと考えます。

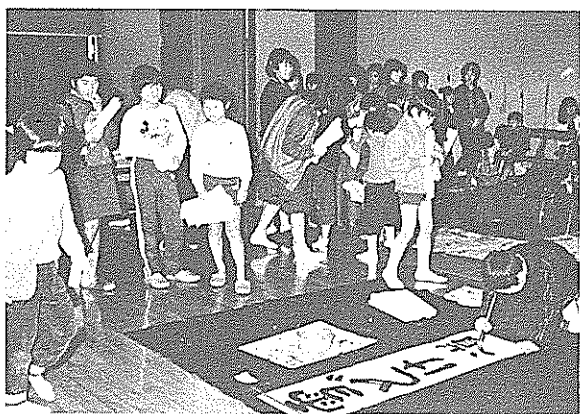
平和なうちに新しい年を迎えま
したが、南国市では今、財政危機
という重大な時期に直面いたして
おります。

加えて、国の行政改革の波は、
ただでさえ困難な地方自治体の財
政に覆いかぶさっており、南国市
の財政はさらに困難なものとなる
でしょう。今こそ執行部と議会は
相協力し、ともどもにこの難局に
立ち向かわなければならぬと、
決意を新たにしております。
しかし、決して委縮することは
ありません。

ご承知のように、一昨年十二月
には、高知空港のジェット化が実
現しわずか一年ですが、高知県の
産業、文化の発展に大きな成果を
もたらせました。また、今年六月
には大鳴門橋も開通すると聞きお
よんでおりますし、四国横断自動
車道の建設も部分的ではあります
が、昭和六十二年の開通を目指し
て着々と進んでいます。このよう
に南国市は、高知県における空と
陸の玄関として、また、高知市に
次ぐ第二の県都として、二十一世
紀に向けて大きく飛躍発展する大
いなる可能性を秘めているからで
あります。

先人が、嘗々と築いてきた私た
ちの郷土南国市の新しい未来を、
全市民の英知を結集して切り開い
ていこうではありませんか。
最後に、この一年が皆様にとつ
て、すばらしい年でありませう
と祈念して、新年のごあいさつと
いたします。

新たな気持ちで書き初めをする子供たち



力強く「書き初め」

113人の子供たちが参加

新年の新たな気持ちを
込めて——一月四日市立

中央公民館で「書き初め大会」が
開かれました。

これは、今回初めて南国ライオ
ンズクラブ（東川裕会長）が主催
したものです。

対象者は、園児から中学生まで。
当日は、市内各小学校から小学生を
主に百十三人が参加。同伴の父兄
も交じり、会場はいつぱいとなり
ました。

子供たちは、画仙紙三枚に大き
な筆で力強く、思い思いの字を書
き、お母さんたちは子供の奮闘を
見守っていました。

出来上がった作品は、どれも力
作ぞろい。審査の結果、奨励賞に
予定の二倍の二十人が選ばれ、東
川裕会長が表彰状を手渡しました。

御用始めの四日、今年の健康
と飛躍を願う恒例の「走り初め」
が行われました。

午前九時半、市役所玄関前
にはトレーニング姿の小・中学生、
一般市民など二百人が集合。準
備体操をして体をほぐした後、
小笠原市長、浜田助役ら先頭
にスタート。まず、日吉神社で
市発展を祈願し、後免商店街を
抜け電車通りを市役所まで元気
に走り、さわやかな汗を流しま
した。



今年の飛躍を願い、市長ら先頭
に走り初め

200人が走り初め

南海分団が模範操法

◇◇ 出初め式に320人 ◇◇

正月恒例の消防出初め式が一月
六日、土曜市会場の市立中央公園
で約三百二十人が集まり開かれま
した。日ごろ各地域で消防活動に
活躍する十二の消防分団、市消防
署員らが制服姿で整列。

まず、斎藤正展団長が「火災予
防と災害防止に努め、市民を守つ
てもらいたい」とあいさつ。浜田
助役が「市街化も進み、現在の装
備では不十分な点もあると思うが、
市民の生命と財産を守るため、今
後ともいっそうの協力を願いたい」
と述べました。そして各分団ごと
に、人員、服装点検を行い、その
後、南海分団による模範操法が披
露され、団員のきびきびした動作



に防火への気持ちを新たにしてい
ました。